

令和3年度 加納中学校 学校経営計画

学 学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営ビジョン 「命を大切にできる学校」「楽しさを実感できる学校」を柱に、チーム 加納中で学校、生徒、保護者、地域の強み（よさ）を生かした魅力ある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

【自己評価書】 4段階評価：4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する 【学校関係者評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
知育 授業力を高め、学力を向上させる。	授業の中に「しっかり教える」「じっくり考えさせる」「はっきり表現させる」場を位置づけ、各場面における効果的な手立てを取り入れた授業を実践する。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」、「楽しい」が80%以上である。	・学力の定着と向上を図るために、「学びのサイクル」に基づいた授業の展開を、どの教科においてもおむね統一して実施する。	3		生徒アンケートより「毎日の授業が分かる・楽しい」の3・4段階83%である。学力の定着を図るために「学びのサイクル」に基づいた授業を展開しているが、一定の効果が見られているので、この取組を今後も継続していく。	3	生徒一人一人の学力をつけさせるために、授業における指導過程の場面において、具体的手立てを明確にして全校的に工夫・改善しながら実践されているのは大変評価できる。学力向上に係る「学びのサイクル」に基本をおいた取組は、生徒の意識やモチベーションを高揚し、一定の成果を上げていると考える。教師の授業改善に対する意識の高さが何え素晴らしいと思われます。学校全体で数値目標は達成できていますが、生徒や保護者の中に「あまりそう思わない」が20%を超えている学年があるため、更なる検証の必要性を感じます。大変良いと思います。教師の評価は100%なので生徒の83%はすごいです。授業が楽しくないのか知りたいです。
	全職員が一人一授業を実践し、職員間で指導内容や指導方法を共有し、指導力を高め合う。	生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」、「楽しい」が80%以上である。	・ICTの活用や学習課題の明確な提示など、授業改善を行う。 ・校内研修と連携し、全職員が1回以上の研究授業を行い、授業力向上を目指す。	3		生徒にタブレットが一人1台配付され、授業の中での活用を進めている。職員のICTに関する研修も随時行っており、より一層の活用を目指していく。	3	全校的に指導力を向上させるため、全職員が相互に磨き合う研修の成果は、とても期待できる。「学びのサイクル」の授業の取組の中で、生徒のモチベーションや理解を高めるためのタブレットの活用は、大変成果が期待できる。授業場面の活用の効果が求められる。ICTの研修は学校教育に限らず社会全体の喫緊の課題だと思われます。職員研修が随時行われていることには感心しました。指導方法の一手段として先生方のリテラシーの高さが目に浮かびます。一人一授業が完全に実施できたかはわかりませんが、加納中では魅力ある授業の実践が多いのだと思います。大変良いと思います。ICT活用で、授業改善が大変だと思えます。タブレットの導入により、生徒の興味も高まり更なる期待がもてる。
	学習規律の徹底を図り基本的な学習習慣を確立させる。	生徒による学校生活アンケートで、『「2分前着席」、「1分前黙想」など、学習ルールが守られている』が85%以上である。	・年度当初に学習指導集会を開き、生徒に取組の説明を行う。 ・学習委員会の活動を活性化し、生徒の自治的な活動を通して、学習規律を向上させる。	3	3	学級委員会を中心に授業開始前の呼びかけを行い、「2分前着席、1分前黙想」などの学習ルール守れている状況が89%であり、数値目標が達成できている。	3	生徒の主体的な専門委員会組織を活用して学習訓練を行っていることは、とても評価できる。学習指導の効果を高める基本的な学習習慣の確立は生徒一人一人の学力向上につながる基礎・基本として、大変重要な取組であると考え素晴らしい。各学年共、数値目標を大幅に超えており申し分のない結果だと思われます。教職員の共通理解、共通指導は無論のこと、学習委員会の取組も高く評価できます。大変良いと思います。教師も80%以上、生徒も80%以上でとても良い。
	家庭学習を充実させるための手立てを講ずる。	テスト学習支援プログラムに示されている学習内容を90%以上の生徒が1回以上は取り組んでいる。	・テスト学習支援プログラムに全校で取り組み、生徒の主体的な学習習慣や態度を育み、学力の向上を図る。 ・宅習内容の充実を目指し、日々の点検や指導を行う。	3	3	テスト学習支援プログラムである「ドリカムシート」の活用が各学年で定着してきており、アンケートより90%の生徒が1回以上はテスト学習に取り組んでいる結果であった。この取組をさらに継続し、効果的な学習支援をこれからも継続していく。	3	テストの学習のポイントを支援するための「テスト学習支援プログラムのドリカムシート」の全般的な活用の取組は、学力向上の手法としてとても評価できる。生徒一人一人の学力に応じた日々の授業と家庭学習の一体化を図る授業の工夫・改善が強く求められる。3学年の学力テストの結果が地区で2番目であることから3年目を迎えた学習支援の取組に一定の効果が出ていると考えます。生徒の主体的な学習習慣や態度を育む家庭学習との連携の在り方について更なる充実を期待します。大変良いと思います。「ドリカムシート」は生徒の目標設定にもつながっており、シートを通じて家庭でも話ができると更なる充実につながるのではないかと感じる。

德育	心の教育を推進し、生徒の規範意識の醸成を図る。	生徒の良さを認め伸ばす指導を推進し、生徒の自己肯定感を高める。	・生徒による学校生活アンケートで『生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす』が85%以上である。	・朝の会・帰りの会を使い、委員会活動を活発化し、スピーチ活動を行うと同時に賞賛の場を多く設ける。 ・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。	3	アンケートによると、3・4段階が83%と目標にやや届いていないが、内訳を見ると3年生が肯定的な割合が多くなるので、粘り強くよさを認める指導を3年間続けていきたい。保護者は3・4段階が88%の評価で、ある程度理解してもらっていると考える。一人一人のよさを生かし支援していきたい。	初期段階の具体的な数値目標は3・4段階においてアンケート結果では目標値に届いていないが、3年間の実践の積み上げによる成果をみると達成できており評価できる。保護者は高い意識をもって前向きに理解しており、学校の取組の努力と成果が認められる。生徒一人一人が自分の良さをよく理解し、アイデンティティの確立を図る行為と粘り強く支援していくことが極めて大切であると考えられる。数値目標にはあと一步届いていませんが、アンケートの結果から教師の指導の熱意が生徒や保護者に十分伝わっていると思われます。「家庭生活が落ち着いていて、毎日が楽しく充実している」と答えた生徒が86%いることから加納中では生徒指導の機能を生かした指導実践が徹底されているのではないのでしょうか。先生方は忙しいです。だけど、生徒は先生から声を掛けられるのを待っています。一人ひとりの良さを伸ばす指導をこれからもよろしくお願います。
	Q-U検査の結果をもとに、全職員で生徒一人一人に適切な指導、支援を行う。	・分析結果で学校生活満足群の生徒の割合が60%以上、不満足群の生徒が10%未満である。	・学級の状況を分析し、指導と生徒の状況のマッチングを図り、具体的手立てを研修などを通して学ぶ。また、学年全体で共通理解をして、共通実践をしていき、満足群が増え、不満足群が減っていく努力を行う。	2	Q-Uの集計結果によると学校生活満足群の生徒の割合が1年生で平均55%で不満足群の生徒が平均22%であった。Q-Uの結果を参考にし、生徒一人一人の様子を観察し、適切な支援を行っていく。また、1年生に関しては、第2回のQ-Uを実施する予定であり、更なる改善を図っていききたい。	科学的な手法による客観性の高いQ-U検査を毎年度実施することにより、日常指導の在り方と成果や対策を明確にすることができるとも評価できる。1年生は、中学生活に係るギャップを感じる生徒が多いと思われる。そこで、入学段階のできるだけ早い時期にバリエーションをできる限り少なくするため、特段の配慮と具体策が強く求められる。学校不適応が生じやすい1年生にQ-U検査を2回行うことは適切な指導、支援につながると思います。学校生活に関する意識調査では学校生活が楽しく充実しているが多いですが、Q-U検査の学校生活不満足群の生徒の理由が知りたいものです。良いと思います。	
	SCやSA、SSW等と連携し、いじめ、不登校等の未然防止と早期解決に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『先生は気軽に相談に応じている』が85%以上である。 ・不登校数の減少を図るとともに、新規不登校者を出さないようにする。	・教育相談の時間をしっかり設定する。 ・相談アンケートの回数を増やす。 ・SCやSSWとの相談会議を増やす。	3	アンケートによると、3・4段階は87%であり、教育相談などを通してほぼ応じている状況である。また、SCなどの専門的な機関とも連携を図り、不登校生の減少や様々な問題に対して支援しているところである。今後とも粘り強く支援していきたい。	3	不登校生徒の要因が多岐にわたっており、究明して解決を図ることは容易なことではない。個々の不登校生徒にしっかり寄り添って多面的・総合的な視点から方策を定めて、徐々に解決の糸口を探って努力をすることが大切であると考えられる。本校では、不登校生徒に対する各種の方策をとって計画的・継続的に取り組んでいる点はとも評価できる。2、3年生の不登校生徒が少ないことに驚きました。と同時に生徒指導に関わる小中連携の重要性を感じています。不登校の解決には、時間を要しますが、可能ならば、いじめ・不登校対策委員会等、生徒指導に係る会を毎週実施し、1年生を中心とした重点的な対策を講じていただきたいと思います。不登校生徒が増えているので、保護者の協力が必須である。命を守るため、無理をさせてはいけないう、難しい問題です。4月からコミュニケーションスクールが導入されるので期待します。
	人権教育や道徳教育の充実を図り、健全な心の育成に努める。	・生徒による学校生活アンケートで『マナーや校則などルールを守ることが身についているか』『周りの友達に対して優しく接することを心がけているか』が85%以上である。	・生徒との対話、生活の記録を用いた心の交流、道徳の授業の充実、などを行う。 ・日常生活の中で言語環境を整え、思いやりのある学級集団作りを行う。	3	アンケートによると、3・4段階は92%以上であり、全体的に肯定的な回答が得られた。今年度は、あいさつの徹底を行うなどして、マナーなどの定着を進めている。また、校則の大胆な見直しを行った。これからは自分で判断することが大切になってくるため、校則を通して正しい判断ができる生徒の育成に努めていきたい。さらに、いじめ撲滅委員会を立ち上げ、様々な活動を行っている。	人権教育及び道徳教育の根幹は共通しており、「心の教育の充実」を図ることが基本となると考える。校則を守ることや自他の人間関係づくりなど、心の教育の基本的な課題にしっかり向き合って実践されており、3・4段階で92%以上の肯定的な回答が示されており、素晴らしい成果が出ておりとても評価できる。生徒のアンケート結果は極めて良好で特にあいさつの実践は素晴らしいと思います。反面、教師の「あまりそう思わない」の19%が気になります。道徳の授業、言語環境の整備、学級経営の充実等、教師側の課題を明確にしておく必要があるのではないのでしょうか。校則の大胆な見直しに生徒は「意見を聞いてもらった」と学校と先生方と自分たちで創っていると思ったことでしょうか。ありがとうございます。校則の見直しは良い取組だと感じた。	

健康に対する関心を高め、健康で安全な生活を送ろうとする実践力を育てる。	自分の健康に関心をもたせる取組を推進する。(部活動、学校行事、立腰指導、健康教室等)	・立腰指導徹底100%を目指す。 ・新体力テストの上体起こしで県平均を上回る。 ・健康教室出席率85%を達成する。	・立腰集会、立腰指導の実践、立腰アンケートの実施。 ・授業ウォーミングアップで腹筋運動の実施。 ・PTA保体部会で積極的に呼びかけを行う。	3	集会が実施できなかったため、授業をはじめ色々な場面で指導を行っている。授業はじめに補強運動として腕立て伏せ、バービージャンプを行い、筋力向上に努めている。PTA関連行事はコロナの影響で実施されなかった。健康教室については、2月に実施予定である。	コロナ禍のため、はじめ予定していた計画どおりにできなかったのはとても残念である。青年期の成長段階にある中学生の健康づくりは大変重要である。計画されてもできなかった分は、学校における諸活動の中で、工夫して取組み、補充されている点はとても評価できる。立腰姿勢の評価が生徒は68%と低いのですが、なぜでしょうか？生徒にもコロナの中でも体力づくりができるプログラムや筋力向上に向けての取組も必要ではないかと感じた。
	朝食100%摂取、給食の残食ゼロを目指す。	・課題提出100%を目指す。 ・給食の残食調査において、残食0を目指す。	・夏休みの課題として、次のいずれかを行わせる。 ①元気の出る朝ごはんを作り、レシピを提出する。 ②夏休みのクッキングイベントに参加する。以上を選び、生徒の意識づけを行う。	3	アンケート結果は、93%摂取している。給食の残食は、最初より減っているが、ゼロにはならないクラスがある。クッキングイベントは新型コロナウイルス感染症のために中止した。	本校における毎日の朝食摂取が93%はとても評価できる。朝食の摂取は人間が円滑に生きて生活していく上では極めて重要な課題である。最近では無摂取で登校してくる生徒が増加傾向にある。本校は計画的・継続的に指導されており、その成果がでていると評価できる。給食の残食は日常より、きめ細やかに心棒強く継続的に指導することにより限りなくゼロに近づける取組が大切である。より一層の継続指導を期待したい。給食の残食ゼロは難しいですね。センターに量を減らしてもらえないのでしょうか？SDGSの取組として食品ロスや地産地消についての更なる学習又は、家庭にも情報の提供も必要ではないかと思う。
	弁当の日の実践をとおして、食に対する関心と感謝の心を育てる。	・年2回の生徒が作るお弁当の日を実践する。	・家庭科の時間に1、2年生は地域の食材を使った弁当作りを実践する。 ・食育指導を段階的にを行い、実践項目のレベルアップを図る。	3	コロナの影響でお弁当の日は、1回目は実施することができた。集計結果から、1、2年生に比べて3年生の実施率が低かった。2回目は実施できていない。また、地域の食材を使った弁当作りもできていない。	食育指導を全校的に計画され実践されているが、コロナ禍により、完全実施ができなかったことは、とても残念あるが、学年のどこかでできる時に可能な限り実践して欲しい。本校は、これまで家庭科の授業の中で、食育全体の深化、補充、統合を図って、弁当の日の実践化を行って成果を出しているのはとても評価できる。文化祭や合唱コンクールがなかったのも、弁当作りはやってほしかった。
	安全意識を高め、行動できる力を育てる安全教育を推進する。(避難訓練の工夫、危険予測学習等)	・避難訓練年2回、シェイクアウト訓練年3回、全生徒の安全・防災意識を高める。	・安全、防災に関する訓練を計画通り行うことで、日頃から地震、津波その他の危険に対して備える。 ・いろいろな場面における危険を予測し回避する力を育てる安全教育を行う。	3	避難訓練は、2回実施できた。シェイクアウトは、学級での説明だけであった。3学期に、地震・津波を想定しての避難訓練を実施する予定である。安全教育については、平日頃から取り組むことが大切である。	現在、日向灘地震や南海トラフ等に係る喫緊の課題が、宮崎市民、県民の生命、財産、安全等の観点から常にその対応が厳しく問われている。本校は、全校的に意図的、計画的、継続的に地震、津波、火災、風水害等を想定した避難訓練を日常から繰り返し実践されており大変素晴らしいと評価できる。シェイクアウトの訓練はコロナ禍にあっても是非とも実施していただきたい。1月22日の午前1時8分に宮崎は震度4でしたが、大きな地震でした。今回は夜中で自宅だったけど、授業中、部活動中があるかもしれません。加納中は津波の心配は要らないと思いますが、避難場所になると思います。訓練をよろしくお願いします。

<p>家庭や地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>学校環境整備充実</p>	<p>授業等において地域人材の積極的な活用を図る</p>	<p>地域人材100%活用を目指す。</p>	<p>・教科において活用可能な教材を精選し、地域の人材を生かした授業の充実を図る。</p>	<p>3</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の中、2学年の総合的な学習の時間において、職業人講話で、地域人材を効果的に活用することができて良かった。</p>	<p>コロナ禍の中ではあったが、感染防止の対策を具体的に図りながら効果的な地域の人材活用ができたことはとても評価できる。各教科領域等の中で、具体的な地域の人材を図る指導過程の工夫改善とその具体的な教材研究の推進はコミュニティスクールに移行した場合とても重要になると考える。加納には、素晴らしい方々がいますので、まだまだ活用してください。</p>	
	<p>学校ホームページや学校だより等を活用し、地域への情報発信を行う。</p>	<p>参観率80%以上を目指し、意見を集約していく。</p>	<p>・学校ホームページを定期的に更新し、学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便り、生徒指導だよりを毎月発行する。 ・通信ファイルを活用し、保護者との情報交換を行う。</p>	<p>3</p>	<p>保健便りは定期的に発行することができた。学級通信はほとんどの学級が定期的に発行することができた。PTA広報誌は、定期的に発行できた。ホームページは、あまり情報を発信することができなかったが、マチコミメールを利用しての情報伝達ができた。</p>	<p>保健だより、生徒指導だよりをはじめ学級通信や学年通信など、種々の情報を家庭や地域に発信し成果をあげているのは大変評価できる。地域に存在する学校として、どのように役割を果たして貢献できるのか、学校の役割をしっかりと見極めて家庭や地域とも連携した今後のコミュニティスクールの構築が今後特段に強く求められる。良いと思います。</p>	
	<p>学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。</p>	<p>保護者アンケートで、「ホームページを見る、学級通信・学校便りを読む」が80%以上。</p>	<p>・学校行事（入学式、体育大会、文化発表会、立志の集い、卒業式等）への案内を出し、評価委員の方々が学校に来られやすいようにする。</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>新型コロナウイルス感染症防止のため、学校行事等に来られる機会がほとんどなく意見を伺うことがあまりできなかった。</p>	<p>本年度も昨年度に引き続きコロナ禍により、年度当初から登校できず日常における円滑な教育活動ときちんと評価することができずとても残念である。本年度もコロナ禍の状況が良い時に登校させて貰い全校の授業を直かに参観させていただいたが、とても落ち着いた雰囲気の中で素晴らしい教育活動が行われていた。コロナで学校に行けていないので評価できません。コロナ感染予防で活動がスムーズにいかなかったと思われるが、その中で生徒に何ができるか何をしてあげられるかを考え少しでも活動ができることを期待しています。</p>
	<p>地域の関係諸機関と連携した学校運営を推進する。 (まちづくり協議会、青少年育成協議会、加納中協力者会等)</p>	<p>学校関係者評価委員会を計画的に行い、評価委員の方々の意見を伺う機会を多くもつ。</p>	<p>・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生児童委員協議会、等との連携を深める。 ・地域のボランティア活動の内容について職員が理解し、生徒への参加を促す。</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>新型コロナウイルス感染症防止のために、地域の行事等も中止が多く参加することができなかった。今後も地域と一体となった活動を推進していきたい。11月2日(火)市長とのふれあいトークでは、積極的に意見交換ができてよかった。11月28日に実施された八重川清掃ボランティアには、100名以上の参加があり地域の行事に参加できてよかった。12月12日に開催される加納マルシェには15名のボランティア参加があった。</p>	<p>「市長とのふれあいトーク」はめったに経験できない貴重な取組でありとても素晴らしい機会として評価できる。宮崎市を引き継ぐ将来の人材育成の観点からも素晴らしい企画として今後とも継続してほしい。宮崎市の存続・繁栄はこの人づくりが根幹であると考えられる。地域におけるボランティア活動はとても重要な生徒の経験であり数多く参加者が活動できたことは素晴らしい。コロナ禍により地域における関係機関等との相互理解や支援の機会などが縮小されたことは大変残念なことである。機会をみて今後より一層の取組みを期待したい。地域の行事に中学生の姿があると活気があります。ボランティアの参加はうれしいです。</p>

